

## 名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

### ～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	副甲状腺機能亢進症における術中病理診断の必要性に関する研究		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～（西暦）2022年12月		
研究実施診療科	移植・内分泌外科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	（西暦）2021年4月5日	
	院長が研究実施を許可した日	（西暦）2021年4月6日	
対象となる方	対象期間内に、名古屋第二赤十字病院移植・内分泌外科において、副甲状腺摘出術を受けた方		
対象期間	（西暦）2000年1月 ～（西暦）2022年2月		
研究責任者	所属	移植外科	氏名 平光高久
研究の意義	当院では、副甲状腺機能亢進症に対して、副甲状腺摘出術を行っている。術中に摘出された副甲状腺が本当に副甲状腺であるかを術中病理検査にて確認し、更に最終診断を永久標本にて行っている。これにより確実に副甲状腺を摘出する事を可能としているが、実際外科医が術中に副甲状腺と思って提出した標本が、副甲状腺でない事もある。外科医の目による診断の正確性、どのような腺を副甲状腺と間違えやすい因子を検討する。		
研究の目的	術中病理検査による副甲状腺診断の必要性、外科医が副甲状腺と間違えやすい因子を検討する。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、統計学的に検討します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。（年齢、性別等の基本情報、副甲状腺機能亢進症治療の情報等）		
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。		
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。		
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。		

利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 移植外科 平光 高久 電話 052-832-1121 (代表)